



福岡市のPM2.5予測情報等について

平成25年10月18日 福岡市環境局

1



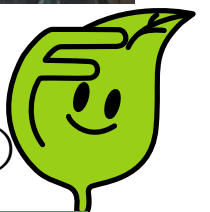
越境大気汚染に取り組んだ経緯



平成25年7月11日
(市内平均 $10.6\mu\text{g}/\text{m}^3$)

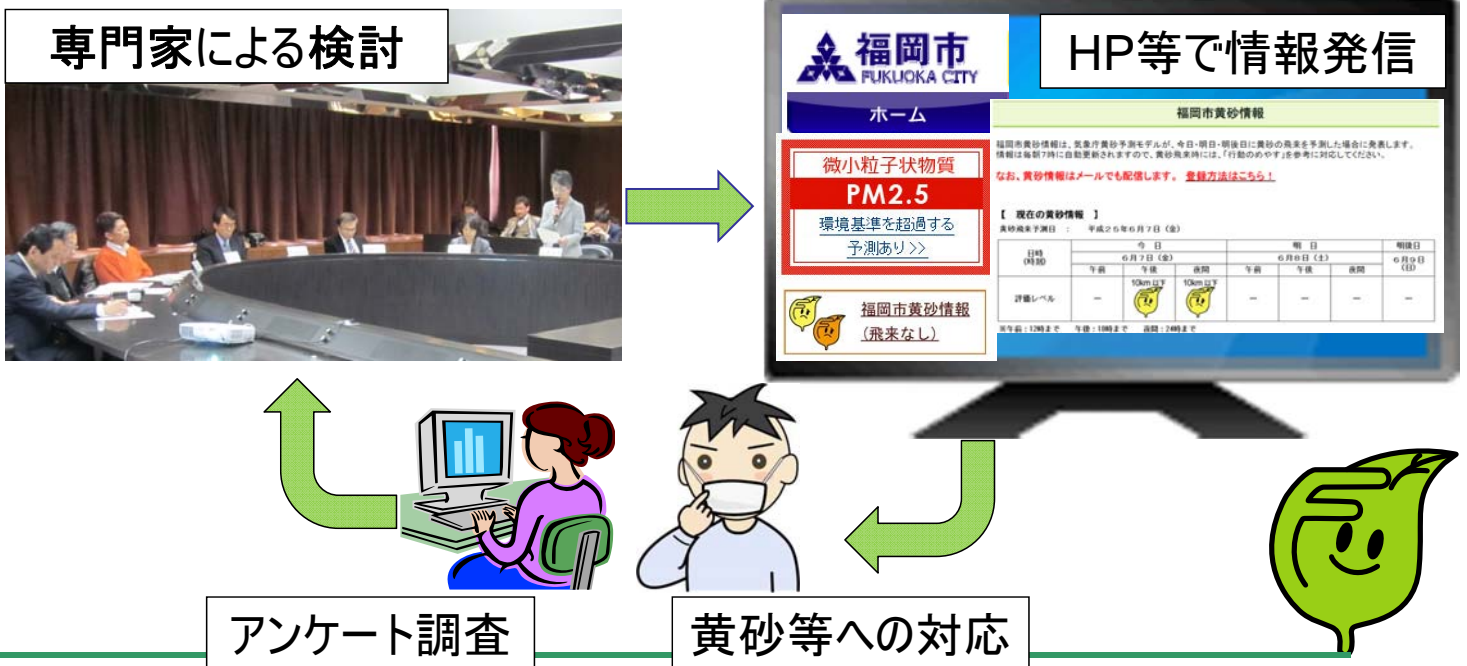


平成25年5月25日
(市内平均 $56.5\mu\text{g}/\text{m}^3$)



春を取り戻せプロジェクト

目的：黄砂やPM2.5飛来時の被害未然防止



3

PM_{2.5} 予測情報

- ・平成25年2月15日開始
- ・当日朝6時における8測定局の平均値で予測
(1日平均の予測=8局平均×0.76+5.43)
- ・健康影響を考慮し、2段階で対象設定



対象	呼吸器系疾患やアレルギー疾患がある人	全ての人
予測	環境基準35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過	国の指針70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過
行動のめやす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出時のマスク着用 ・ 帰宅時の洗眼、うがい ・ 空気の入替えの抑制 ・ 車の運転中は窓を閉鎖 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不要不急の外出の抑制 ・ 屋外での長時間の激しい運動の抑制 ・ 換気や窓の開閉の最小限化

4

PM_{2.5} 予測の結果（平成25年2月15日～9月30日）

・スレットスコアによる的中率は50%

（環境基準超過を予測し、実際に測定値が基準超過した日数13日を合計日数26日で除した。）

単位：日数

	測定値が 基準超過	測定値が 基準以下	合計
基準超過を予測	13	2	15
基準以下を予測	11	—	11
合計	24	2	26



5

黄砂・PM_{2.5}モニター調査の概要

■ 目的

- ・ 黄砂やPM_{2.5}による健康や生活への影響について知見を収集
- ・ 疾患の有無による影響の差などを解析し、情報提供などに活用

■ 方法

- ・ 平成24年12月からホームページなどでモニター登録者を募集
- ・ 性別・年齢層・疾患の有無も併せて登録
- ・ 電子メールで送付される健康状態などに関するアンケートに回答

■ 内容

- ・ 平成25年3月から黄砂飛来前後などに7回の調査を実施
- ・ 登録者数約4,000名中、1,500名前後が回答
- ・ 黄砂飛来前後やPM_{2.5}の環境基準超過後の影響等について



6

黄砂・PM_{2.5}モニター調査の結果

黄砂・PM_{2.5}の生活影響

- アレルギーがある集団は黄砂やPM_{2.5}に対してより注意を払っている

黄砂、PM_{2.5}に対する予防行動

- PM_{2.5}より黄砂への予防行動の実施比率が高い
- アレルギーがある集団は予防行動の実施比率が高い

黄砂・PM_{2.5}の健康影響

- アレルギーがある集団の目や鼻、喉などの症状に影響



7

PM_{2.5}に関する健康影響調査

■ 目的

PM_{2.5}濃度やその成分などと比較し、PM_{2.5}の健康影響を定量的に評価

■ 時期

平成25年度から平成27年度までの3年間

(平成25年11月に予備調査、平成26、27年5月頃に本格調査)

■ 対象

市内小学校の5・6年生 延べ2千人(本格調査時)

■ 実施主体

独立行政法人国立環境研究所及び福岡市保健環境研究所

■ 方法

・健康状況に関する調査票を配布・回収し、集計・解析

・調査時期にPM_{2.5}成分分析等も併せて実施

■ 費用

文部科学省の科学研究費による全額負担



8